

一 此度之一途非礼之儀勿論に候へ共君親之義

左候んハ無御座候、浮沈此節ル極候得所あしくハ  
其分にとゆるがせの心得世にハ忠孝も

なき様ニ被存候、惣而願順路ニ者難参候城下へ

出訴之訳も大屋並合には不参候、実儀此方の

儀者願之趣先ハ沙汰ニ及古来取来り之辻

帰之入津減少の旨ニ付歎之ことニ候へハ出訴

之段恐怖不致有躰城下へ申被有之条

いろ／＼こと葉を構ラリホニツカセ可申もの坎

乍去模様も可有候得とも畢竟うしろ強

いたし置其上之儀尤之様私慮ニそんし候

□□其節口上之趣今度願之儀御城下へ

罷越之处不届ニ候へ共是迄対公儀御願主より

御恵被為置候条当時取繕難相成尤滅亡ニ及

心之所一通御領主達御聞いか様とも相成可申

之覚悟ニ候、就夫上方親類共へも相談ニ及

何とそ御領主御計ニ而家名式も相続仕様彼方より

主人宮様へ御願申、則如斯御合旨相蒙り候

月番之御年寄中へ可差出旨申出候ハ、遲滞之儀

思ひもよらす候、尤私式之者共力様之訳恐入候

得とも先九右衛門上野宮様懸りにて

公辺も仕候例可心安候

一 位なくして葉たかきハ罪なるのよし併

筋あることに候へ者網裏の魚ニて一生を

あやまるぎは無余義こと共ニ候、まさしく

権現様以来参上之者共ニ候へハかねて存立

御座候、万端出京の上申談置追而上方

御城代衆組与力より備州辺へ呼出之計

を以表立出京可申坎、一かたならぬそんし立

何分にも差急候計ハいか様とも計レ候事ニ

御座候、極るところ天へ対おそれなき

はたらきニ候得ハ占文ニも不及我智に

考ル为天官にもとづき申ことニ候、あま龍も

雲を得て池中の物にあらすとの儀一切

雲辺よりゆり出御老中御領主手前こと  
済可申候、尤なましひのこと仕出如何<sup>ニ</sup>と  
多年思慮いたし候んの儀候へ共元来  
公儀<sup>江</sup>そせう無之其義<sup>ニ</sup>付通路開キ  
申之用趣胃中<sup>ニ</sup>御座候

右之通御座候運命故かなハじこと  
路御心に及候て無是非次第飛脚を以  
勘当可受之候、抑忠孝ハ政道之本  
細謹を不顧之仕合本意を達候上  
急度帰国可申候、仍<sup>而</sup>なけ文

如件

壬

七月日 庄右衛門正虎